

3. 多様性による「新たな知の創造」

(1) 若手女性研究者の研究の活性化

ダイバーシティ推進委員会内に女性研究者支援のあり方について検討するワーキング・グループを立ち上げ、若手女性研究者を対象とする表彰制度等について検討を進めています。また女性教員と女子大学院生のメーリングリストを通じて、外部資金の獲得情報や、女性研究者の研究環境改善に資する情報を提供しています。

(2) 女性研究者の裾野拡大

海外で学位を取得されるなど、国際的な視野で活躍される本学の先輩女性教員を囲んで、女性研究者のキャリア形成について語り合う交流会を開催しました。学部生、大学院生、特任研究員、社会人経験者など、人生経験も専門もさまざまな若手女性研究者が参加し、留学先を決めるうえでのポイントや、出産・育児と研究を両立させるうえでの悩みなど、多岐にわたって意見交換がなされました。

また女子中高生や保護者、中学高等学校の教員に理系分野の勉強や仕事の現場を紹介し、理系への進路選択に興

味を持ってもらうため、「東京理系女子探検隊プロジェクト2013」を実施しました。日野・荒川・南大沢各キャンパスの大学説明会と併催で、理系分野の研究活動や大学生活を紹介する「サイエンスカフェ」を開催するとともに、理系の面白さを体験する「サイエンスワークショップ」として、理系の各学部・系が企画・実施する研究室見学やオープンラボなどの情報を提供しました。そして、理系に進んだ女性たちが活躍する企業の現場を見学する「会社見学会」を実施しました。さらに、プロジェクトの背景と目的を説明した資料『なぜ今、理系女子（リケジョ）？』を作成して、参加者全員に配布しました。

▼1/20「若手女性研究者交流会」の様子



学会・研究会・シンポジウム等への参加

文部科学省主催「女性研究者研究活動支援事業シンポジウム2013—世界で活躍できる理系女性研究者の育成—」（平成25年11月11日）に参加しました。女性研究者支援について、女性研究者支援モデル育成事業とその後の女性研究者研究活動支援事業により得られた成果を検証するとともに課題解決のための今後の方策を模索するため、実施機関によるポスター発表、「世界で活躍できる理系女性研究者の育成」をテーマとするグループ討議、有識者によるパネル・ディスカッションが行われました。

他機関との連携

平成26年2月4日に、国立大学法人電気通信大学女性研究者支援室の方々が来室され、女性研究者支援の体制や実施事業のあり方、学内保育所のあり方などについて、情報を交換しました。



文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業
「ダイバーシティを理念とする首都大学東京女性研究者支援事業」

平成25年度事業報告書(概要版)

首都大学東京 ダイバーシティ推進室

ダイバーシティ推進室 構成員

推進室長	首都大学東京 副学長	江原 由美子
室員	都市教養学部 人文・社会系 准教授	不破 麻紀子
	都市教養学部 人文・社会系 教授	稲葉 昭英
	都市教養学部 法学系 准教授	木村 草太
	都市教養学部 経営学系 教授	飯村 卓也
	都市教養学部 理工学系 教授	神島 芳宣
	都市環境学部 教授	竹宮 健司
	システムデザイン学部 教授	串山 久美子
	健康福祉学部 准教授	蘭牟田 洋美
	国際センター 准教授	海野 るみ
専任スタッフ	男女共同参画推進担当	太田 恭子
	障がいのある構成員支援担当	塚本 鶴樹
	女性研究者支援担当	島 直子

文部科学省科学技術人材育成費補助金 女性研究者研究活動支援事業
「ダイバーシティを理念とする首都大学東京女性研究者支援事業」
平成25年度事業報告書(概要版)

発行：公立大学法人 首都大学東京
連絡先：首都大学東京 ダイバーシティ推進室
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 図書館本館1階
電話：042-677-1111(内線2571) / 直通：042-677-1337
FAX：042-677-1355
E-Mail：diverwww@tmu.ac.jp
URL：http://www.comp.tmu.ac.jp/diversity/
発行日：平成26年3月31日

※報告書(全文)の閲覧を希望される方は、ダイバーシティ推進室までお申し出ください。

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」を、3つの柱を中心に実施しました。

1. ダイバーシティ実現のための意識啓発と環境改善

2. 多様な生き方・働き方を実現できる制度の設計

3. 多様性による「新たな知の創造」

1. ダイバーシティ実現のための意識啓発と環境改善

(1) 意識啓発

ダイバーシティ推進室フォーラムを3回開催し、ニュースレター『ダイバーシティ通信』第6号から第8号を発行しました。

フォーラム「学術分野における女性リーダー育成の意義」2013年6月



▲(左から) 江原・大坪氏・原島学長



基調講演「Beyond the Bias and Barriers ～日米にみる女性研究者支援～」

大坪 久子 氏 (日本大学薬学部薬学研究所上席研究員)
対談「首都大の女性リーダー育成に向けて」
大坪 久子 氏 × 原島 文雄 (学長)

フォーラム「ワーク・ライフ・バランスを実現するための『新たな働き方』とは？」2013年10月



▲(左から) 渥美氏・井上氏・岡部・石川

講演「ワークライフバランス経営の理念と実際 ～職場における業務改善～」

渥美 由喜 氏
(厚生労働省 政策評価に関する有識者会議委員/東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長)
講演「ワークとライフの上手なつなげ方
～奈良先端大の取組み～」

井上 美智子 氏
(奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 教授)
パネル・ディスカッション「首都大の勤務環境改善に向けて」
(パネリスト)

渥美 由喜 氏/井上 美智子 氏
石川 知広 (人文科学研究科 教授)/岡部 豊 (理工学研究科 教授)
(コーディネーター)
江原 由美子 (ダイバーシティ推進室長)

フォーラム「女性研究者支援の継続に向けて」2013年12月



▼報告者: 下川原



▲山村氏



▼報告者: (左から) 朝日・阿部・蘭牟田



▼江原



基調講演「女性研究者支援・育成の現状と今後」 山村 康子 氏 (独) 科学技術振興機構科学技術システム改革事業プログラム主管) 「女性研究者研究支援員制度」の成果報告会

報告者)
下川原 英理 (システムデザイン研究科 情報通信システム学域 助教)
朝日 ちさと (社会科学部 経営学専攻 准教授)
阿部 穰里 (理工学研究科 分子物質化学専攻 助教)
蘭牟田 洋美 (人間健康科学研究科 作業療法科学学域 准教授)
(コーディネーター)
島 直子 (ダイバーシティ推進室 女性研究者支援担当)
本学における「女性研究者研究活動支援事業」を振り返って
江原 由美子 (ダイバーシティ推進室長)

3年間の取組みと成果を総括し、補助事業終了後の女性研究者支援の継続に向けて議論を深めました。女性研究者支援のための施策と課題について基調講演をいただき、「女性研究者研究支援員制度」利用者に、利用による成果を報告いただきました。

ニュースレター『ダイバーシティ通信』の発行

第6号 (2013年7月) 第7号 (2013年12月) 第8号 (2014年2月)



(2) 勤務環境の改善

平成23年度の「ワーク・ライフ・バランスに関するニーズ調査」や、女性研究者へのヒアリング調査から得たご意見などをもとに、環境改善のための整備計画案を作成しました。また本年度は、これまでの事業を評価し、今後の取組みについて検討するため、「平成25年度ワーク・ライフ・バランスに関する調査」を実施しました。

(3) 女性研究者の雇用促進

「理系3学部・系の新規採用者における女性比率を30%にする」という目標達成に関する協力を学長が要請するなど、女性研究者の雇用促進を図りました。また、平成23年度に学部・系ごとに「女性研究者雇用促進及び環境改善計画」が策定され、それぞれの部局においても取組みが進められています。

2. 多様な生き方・働き方を実現できる制度の設計

(1) ワーク・ライフ・バランスに関する多様なニーズの把握

本学のライフイベント中の女性研究者や若手女性研究者へのヒアリング調査、「平成25年度ワーク・ライフ・バランスに関する調査」、フォーラム「ワーク・ライフ・バランスを実現するための『新たな働き方』とは？」などを通じて、家族構成やライフステージなどによって異なる、ワーク・ライフ・バランスに関するニーズを把握しました。

(2) 女性研究者研究支援員制度の創設と実施

出産・育児・介護のために十分な研究時間を確保できない女性研究者(条件を満たした男性研究者も含む)に対して、「研究支援員」を雇用する制度を実施しました。平成25年度Ⅰ期・Ⅱ期ともに、10名を採択しました。利用者からは、「出産・育児のために研究のスピードを落とさざるをえない中、遅くとも前に進んでいる実感を得られた事に大変感謝している」「研究支援員のおかげで研究を効率的に進めることが出来、子どもの看病に集中することが出来た」「時限的な試みではなく、今後も基盤としての制度と位置付けてほしい」といった声が寄せられています。

また、補助事業終了後の制度継続について検討を行いました。平成24年度・平成25年度「女性研究者研究支援員制度」利用者など、本学教職員からの要望・意見などを吟味したうえで、男性研究者も対象とする「ワーク・ライフ・バランス実現のための研究支援制度」の創設がダイバーシティ推進委員会によって承認されました。平成26年度Ⅰ期の利用者が募集・選考され、8名を採択しました。

(3) 女性研究者研究支援体制の整備



▲セミナー講師: 長濱・白石



女性研究者の多様なニーズに添えていくために、専門相談を実施しています。平成25年度からは、相談のマルチキャンパス対応を開始しました。また国際センターの協力を得て、留学生向け女性の健康セミナー「日本で安心して暮らすために: 女性の身体の健康・妊娠・出産」を開催しました。

(4) 保育環境の整備



平成24年度に引き続き、ダイバーシティ推進委員会内に保育環境の整備を検討するワーキング・グループを立ち上げ、一時保育施設整備について検討しました。また昨年度のフォーラム「育児と仕事の両立をめざして: 首都大のイクメン事情」で要望のあった、祝日授業日の一時保育を試行しました。利用者からは、「良かった」「このような保育サービスがあると非常に助かる。来年度も是非実施してほしい」といった声が寄せられています。

(5) 柔軟な勤務制度の検討

フォーラム「ワーク・ライフ・バランスを実現するための『新たな働き方』とは？」などを通じて、本学にふさわしい勤務制度のあり方について検討しました。